



桃一通信

No. 6 8 0

桃井第一小学校
(3390)3178(代)

令和5年 10月号



「深い学び」について

校長 高橋 浩平

モモリンピックが近付きました。インフルエンザによる学級閉鎖もあり、練習時間も少なかった中でモモリンピックですが、ぜひ多くのご声援をよろしくお願いします。

さて、現在の学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善(アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善)を推進することが求められています。「主体的な学び」「対話的な学び」のイメージはなんとなくつかめるところですが、「深い学び」というのはわかったようでわからない、というところがあります。

今年度の都の学力調査の意識調査で「国語(社会・算数・理科)の授業の内容はどのくらいわかりますか」の問いに「よく分かる」「どちらかといえば分かる」「どちらかといえば分からない」「ほとんど分からない」の4択、「国語(社会・算数・理科)の学習はどれくらい得意ですか」の問いに「得意」「どちらかという得意」「どちらかという得意ではない」「得意ではない」の4択、という調査がありました。クラスごとの差はありますが、「よく分かる」「得意」を選んだ人の中に、「いやいやそこまでできてないでしょう」という人もいたなあ、と思いました。「自己肯定感が高い」という点ではいいのかもしれません、「わかったつもりになっている」ということはないかな、と少し心配になりました。

たしかに45分の授業をしっかりと先生の話聞いて活動したら、「今日はよくできた」と満足感もてるのだと思います。ところが、「学習の内容をしっかりと理解したのか」という観点で見ると、「内容はよくわかりませんが、積極的に活動しま

した」的な感じになっているのではないかと思います。実は8月の先生方の研修会でも、このことを指摘しました。

数学者の秋山仁さんは、昔「算数ができる力」として、こんなことを言っていました。

①地図が描ける。②下駄箱の指定されたところに自分のうわばきを入れられる。③料理ができる。ーこれは、「空間認知力、立体を平面で表す力、マトリックス、手順や順序がわかる」ということで、こうした力を土台としながら算数の学習を理解しつつ進めていくわけです。そう考えると「地図が書けない」子は、図形の問題などはかなり理解が困難なことであろうと推察されます。

本校のインクルーシブ教育は「できないことをほったらかしにしない」をスローガンに進めています。そのためにも、できることとできないことをしっかりと見取ることが大事だと思っています。

- ①おひるにカレーライスを食べます。
- ②おひるにカレーライスを食べました。
- ③カレーライスをおひるに食べました。
- ④カレーライスをおひるに食べます。
- ⑤おひるにカレーライスを食べたいです。

以上の文の中で「カレーを食べたのは何番で、食べてないのは何番?」というのは、ちょっと気をつけて読めばわかるわけですが、こうした文章の読み取りも、子供たちは思い込みや簡単な読み違いがあるかもしれません。「どう見てるかな」「どう理解しているのかな」といった丁寧な見取りが「深い学び」につながると考えています。

今月もどうぞよろしくお願いします。



10月の生活目標『進んで仕事をしよう』

今月は、自分から進んで仕事をすることを目標に取り組みます。各学級では、掃除や給食当番、日直など、学級の間々が気持ちよく過ごせるように仕事を分担しています。10月からは、後期の委員会活動が始まります。学年によって、仕事の内容は異なりますが、自分の与えられた仕事に責任をもって、最後までやり遂げることは大切です。

小さなことでも自分が役に立っているという経験の積み重ねが、自信につながります。誰かの役に立つことに喜びを感じられる桃一の子を育てていきたいと思います。



ももいち教室ってどんなところ？



西校舎の2階にある「ももいち教室」は特別支援教室です。「ももいち教室」は何をするところか、ご存じですか。「ももいち教室」は、少人数での活動を通して、一人ひとりの子供が、安心して学校生活を送れるようにしたり、自分に適した学習方法を見付けたりするところです。苦手なことをできるようにする、という観点からだけではなく、どうすればできるか、周りの環境調整をどのようにすればいいのかなどを考え、学級での支援につなげられるようにしています。

自分の考えを伝えることが苦手な児童に対しては、発言の練習を積み重ねるだけではなく、事前にどのような準備をすればよいのか、どのような質問なら答えやすいのかなど、個性に合わせたアイデアを考えています。学級での様子を担任とも共有しながら、一人ひとりの成長をサポートしています。

お子様の生活や学習の様子で気になることがありましたら、いつでもご相談ください。

(特別支援教室専門員 伊藤真規子、特別支援教育コーディネーター 伊藤美波・行定陽美)





幼保小・小中連携について

幼保小・小中連携担当

杉並区では、小学1年生や中学1年生等でおこる課題に対し、研修会や協議会を実施し、幼保小・小中連携を推進しています。本校でも校区内の保育園並びに、井荻中と四宮小と連携を深めています。

(1) 幼保小連携について

定期的な研修会を通して、入学時の課題や幼稚園・保育園での取り組みなどについて話し合っています。また、今までコロナ禍でできなかった交流活動を再開しています。7月には4年生が、6つの保育園に、プールから救出したヤゴをお渡ししました。今回は2歳児から5歳児までと幅広く、説明する4年生も、園児の反応を見ながら説明をしていました。クイズやイラストを入れたり、実物を手に目の前で説明したりと、様々な工夫が見られ、保育園の子供たちの良い反応にも助けられ、楽しい交流会となりました。

今後も少しずつでも交流の時間をもち、桃一小を知ってもらえる機会を増やしていきたいと思います。

(2) 小中連携について

3校合同インクルーシブプロジェクトを通して、井荻中、四宮小と連携を深めています。教科ごとや生活指導などテーマ別に分かれ、お互い学校の様子を話し合いました。普段の様子や課題、指導内容を理解することで、学習面や生活面の指導の仕方を考える機会となっています。

また、桃一小では7月に全クラスで授業公開をしました。井荻中、四宮小の先生が参観し、授業内容を中心に教科ごとに話し合いをしました。今後も3校の研究授業を参観し合い、相互理解を深めてまいります。



桃一バンダナについて

1年生の時に配布される緑色の「桃一バンダナ」は6年間使用します。校外学習の時など、桃一小の児童の目印となります。是非、大事に使用してください。万が一紛失した場合は、600円で購入していただくことになります。その際は、担任に連絡帳でお申し出ください。

